

縫合糸反応性肉芽腫

手術の際に使用した縫合糸に対して、数ヶ月～数年後に体が反応して、手術部位の腫れや、肉芽腫というしこりをお腹の中に作ったりする病気です。また、これに関連して皮膚にも“しこり”ができ、そこから膿が出たりするようになってしまうことがあります。

特にトイプードル、ミニチュアダックスフント、マルチーズ、チワワなどで報告がありますが、どの犬種でも、また猫ちゃんでも起こりえます。



予防法は、手術の時にお腹の中になるべく糸を残さない事です。

当院では今まで糸で縛らなければならなかった血管を、新しい医療機器の導入により糸を使わずに止血する事が可能になりました。これにより縫合糸反応性肉芽腫のリスクがかなり軽減され、麻酔時間も短縮され、より安全な手術が行えるようになりました。

去勢手術（犬・猫）、避妊手術（猫）は、お腹の中に完全に糸を使わない手術が可能です。

避妊手術（犬）は、子宮頸管部（子宮の根元）や、卵巣の血管（特に大型犬）については、必要に応じて吸収糸（溶ける糸）で補強させていただきます。

吸収糸は、約3カ月で体内に吸収されてなくなります。

*犬・猫とも避妊手術は、開腹手術となりますので、お腹を閉じる時には吸収糸での腹壁の縫合は必要になります。

医療機器使用のコストがかかりますが、ご希望により使用可能です。

糸を使わない手術：+ 8 0 0 0円

